

韓国の「ホワイト国」復帰を支持する

米満 啓

「徴用工問題」の好転を受け、4月28日に韓国の「ホワイト国」復帰案の意見が公募されました。

日経は4月30日社説(<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODK28BDW0Y3A420C2000000/>)で「歓迎」を表明、他マスコミ報道でも目立った反発はあまり見受けられません。とはいえまだ**情勢は予断を許しません**。

というのは「ホワイト国」除外当時（2019年）の記憶があるからです。あのときは「4万件余の意見が寄せられ、うち95%が除外に賛成」と、大臣がTVカメラに向かって得意満面に語ったのでした。また、経産省のツイッターサイトには、「（「ホワイト国」除外に賛同する）威勢のいい言葉が飛び交いました。あの人たちの「熱」がそう簡単に冷めるようには思われません。

もちろん「ホワイト国」復帰反対派の言い分にも道理はあると思います。「徴用工問題」の好転はよしとしても、**両国間の問題がすべて解決しているとはいいきれないからです**。「ホワイト国」除外の直接の「理由」であった、「韓国政府の輸出管理」は改善しているのか？ 自衛隊機への「レーダー照射事案」は落とし前が着いたのか？ 言い出せばまことにキリがありません。

しかしそれら**未解決問題が存在するとしても、私は今回の政府案を支持します**。以下、理由を記します。

第1に、国同士の交渉においては、すべての問題が一度に解決することは極めて稀だからです。**満額回答が得られるまで頑張るとするのは、戦争で相手が無条件降伏するまで戦うのと同じ**です。そういう先の見通しのない戦い方を、我が国は先の大戦で経験してしまいました。

その轍を踏まぬための智慧が「出口戦略」です。失敗した或いは多少の戦果はあっても期待した程でないというときに、どこで鉾を納めるか予め考えておきましょうということです。それはまた孫子の言う「兵は拙速を聞くも、未だ巧久しきを睹ざるなり」に通じます。こちらで手を打つのは、その道理に適っていると思います。

第2には、「徴用工問題」における**「卓袱台返し」の予防**という意味があります。心配する人たちの気持ちはわかりますが、ことが長引くほど「卓袱台返し」のリスクは上昇します。

第3には、今回尹大統領が国内の反対論（例えば<https://japan.hani.co.kr/arti/politics/46093.html>）を敵に回すリスクを取っていることへの評価です。日本から見たら、まだ物足りないところはあるかもしれませんが、しかし国内の強硬意見に乗っかっていく方が政治家としては楽なところを、敢えて頑張っているように私は感じます。そこは評価しなくてはいけないと思うのです。

今回の意見募集に際し、拙文がみなさんのご判断の参考になれば幸いです。